



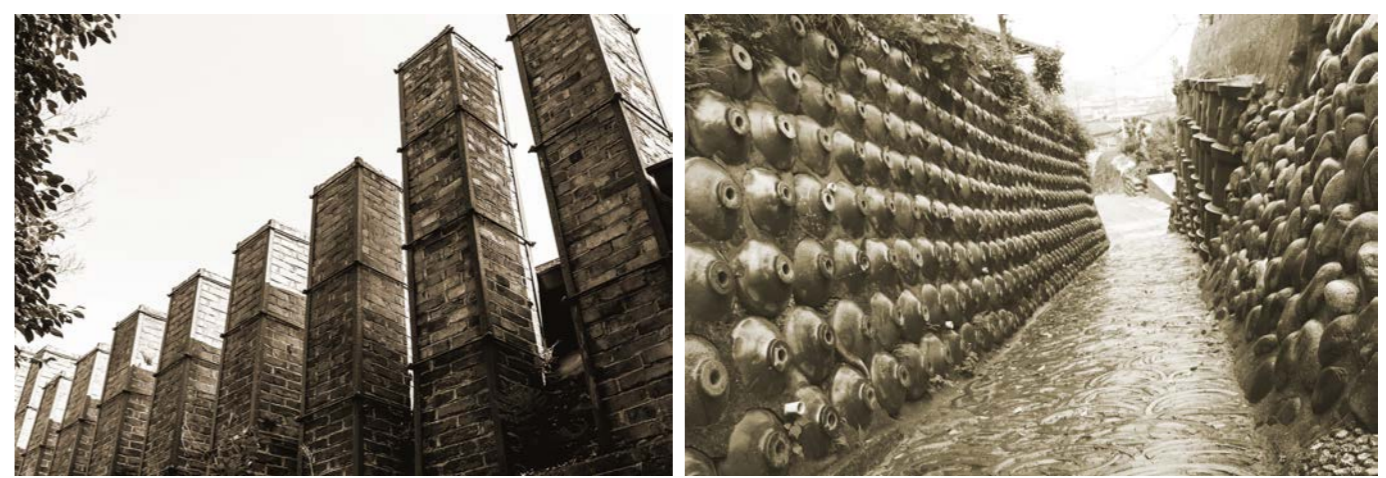
# MICHINOEKI TOKONAME

街に溶け込む道の駅



## ABOUT TOKONAME

知多半島の中央、西海岸に位置する人口約6万人の市。平安時代末期頃から「古常滑」と呼ばれる焼き物の産地として知られ、瀬戸、信楽、越前、丹波、備前と並び、日本遺産に認定された日本六古窯の一つ。江戸時代以降は急須、明治時代からは土管、タイルなど時代に合わせた焼き物を生産し、現在でも窯業は主産業となっている。旧市街にはレンガ煙突が点在するなど、窯業で栄えた古くからの町並みがそのまま残っている。この地域はやきもの散歩道として整備されており、登り窯や黒板塀、「土管坂」などの情緒ある風景が見られ、前衛作家などのギャラリーも多く存在する。



## 国際芸術祭あいちトリエンナーレ

「あいち 2022」は、国内最大規模の国際芸術祭の一つであり、国内外から100組のアーティストが参加します。愛知芸術文化センターのほか、一宮市、常滑市、有松地区（名古屋市）のまちなかを会場として広域に展開します。愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区のまちなかを会場として広域に展開している。  
 常滑市会場：身体表現や五感でアートを体感する  
 昭和初期の風情を随所に残す「やきもの散歩道」を中心に大地や自然の力を感じる作品などを「やきもの散歩道」に沿って巡り、INAX ライブミュージアムへ。



# CONCEPT

常滑やきもの散歩道の出発地点であり、終着地点でもある場所に街の魅力を発信できる街に溶け込む新しい形の道の駅を設計した。

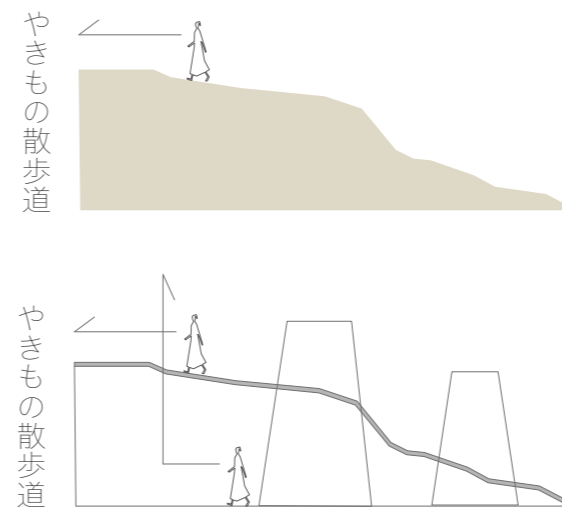
既存の地形の形状を変えずに、敷地の内部を空洞にし、「地形」で空間全体の「一枚天井」を作った。地形でできた天井によって、空間全体の構成が上下二部に分かれる。

下部には、来場者が常滑の街で散歩する気分を味わえるように、道の駅の機能を果たす施設とやきものと芸術祭関連の空間を点在させた。さらに、点在している建物の外観も敷地の後方に位置する常滑やきもの散歩道の象徴である「煙突」の形を意識したものとなっている。上部は街に開かれた場所となり、屋外イベントスペースと地域住民が集まれる広場、公園などとして使用できる。上下二部の空間でできた街に溶け込む新しい形の道の駅を創出することで、常滑の魅力を発信し、地域活性化に刺激を与える。



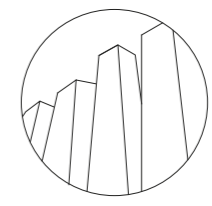
# DIAGRAM

## 地形を活かす

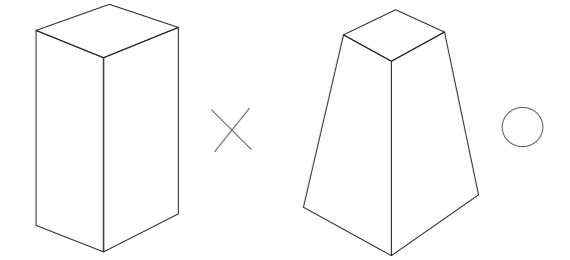


地形の形を変えず、敷地を空洞にし、既存の敷地が新しい空間の天井になる。空間構成は天井によって上下に分かれ、やきもの散歩道へのアクセス方法が増える。

## 「煙突」の形



常滑の代表的な風景の一つであるレンガの煙突をモチーフに。



やきもの散歩道への導入部として、各建物の形もやきもの散歩道の特徴を意識したものにし、街に溶け込む道の駅を目指す。

